

【市長と語る懇談会 記録】

開催日 平成 25 年 6 月 7 日 (金)
地区/会場 明野小学校区／北部公民館
参加者数 28 人
後日回答となった質問 1 件



《質問・意見》

明野自治会の役員をしております。皆さん質問は沢山あると思いますが、結論だけを言いたいと思います。1つは、市長さんの現在のお考え、もう1つは要望でございます。

ご存知だと思いますが、2010年にNHKが無縁社会をテーマに、血縁・地縁・社縁が無くなってきたということで、全国で3万人の自殺者が出ていると、非常に私も衝撃を受けて、行政でも何とかできないのかなと思いました。その翌年の2011年に東北大震災が起きまして、私の自治会からも応援に行った方も居りますし、行政の要請で募金も集めて、皆さんに非常に協力していただいて、やっぱり人間は1人で生きていけないなど、皆さんの優しさを感じたわけです。

それと前後して2012年2月の新聞のコピーを持って来ました。これに市長さん、地域自治の推進に6,571万円というのが書いてありますが、これは、自治会はそのまま残して、まちづくり推進を進める狙いだと、自分たちの理念で故郷創りを作っていこうと、08年にスタートしたとこれに書いてあります。市長さんは、その時に市長をなさっていたかどうかは知りませんが、私も役員はしていませんでした。この間聞きましたところでは、14くらいは目途がついて、2年間延長して20近くいけるのではないかと、お聞きしております。

各自治会に個別に渡していた現状の補助金を統合して、自由に使える一括交付金として、みらい会議に交付すると、新聞社の方は書いているわけですが、このお気持ちは今も変わってみえないのですか。

それから、自治会は現在161だと思っております。活発に活動してみえるところもありますし、名前だけのところもあると思います。旧伊勢市内の場合は、商工会議所さんもありますし、青年会議所やライオンズやいろんな団体があると思います。私の考えでは、自治会は市長さんの頭の中に入っていないのではないかと思います。この周辺地域というのは、商工会はありますけれども、青年団はありません。婦人会もありません。人間の絆を作るのは、あと残っている老人会と自治会だけでございます。私もあまり内輪の話はできないですが、実はみらい会議の役員もしておりますので、あまり話しはしたくないのですけれども、参加してみると、自治会とほとんど一緒のようなことを、5つの柱に立ててみえるわけです。それは何故かということ、皆自治会に入っ

ているからです。役員が 50 人居るのですけれども、50 人ともどこかの自治会に所属しているから、どうしても発想が良く似たものになるわけです。そういう中で、市長さんはどういう差別化を期待してみえるのかが 1 点です。

それから、もう 1 つは民生委員のことについてのお願いです。

私も昨年度 1 人欠員がでまして、新聞を見てみると 2010 年度では全国で 23 万あって欠員が 4 千位あります。だから、今はもっと増えていると思います。私は 30 軒くらい民生委員の要請に歩いたのですけれども、1 軒も受けてくれませんでした。それは何故か、やはり非常にハードな割に無料なのです。奉仕というかボランティアですから。だけどこれだけハードな仕事の中で、やはり無報酬というのは限度があると思うのです。身体が悪いとか、私は吏員ではないとお答えになられました。まだ、伊勢市なんかは良いでしょうけど、都会へ行けばマンションなんかで、1 回通しても開けてもらえない。そういう民生委員さんのご苦労があると思うのです。極論を言えば、今日の新聞ではまだ決まってないですけど、消費税を 5% から 10% に上げるのであれば、民生委員さんを行政の方で受け取っていただいて、そちらに予算を付けて増員して行政でやるか、ボランティアでやるのであればもう少し待遇を考えていただいて、得心のある方がやればいいじゃないかと思います。今は、民生委員をやっているから人が尊敬するとか、そんな時代背景ではないと思うのです。

1 つは要望で、厚生省の管轄だからという事ではなしに、市長会もあるでしょうし、田村先生は厚生大臣です。市長会の方から地元の要望として、是非消費税を上げるのであれば、そちらの 0.00 何%かを廻していただいて、民生委員さんの待遇を良くしていただきたい。

最初の方は、市長さんの方針が 08 年度から一環して変わっていないのか。我々は昭和 22 年から 60 年間行政の下部組織として、自治会はお仕えしてきた訳ですけれども、それから今度これを見ると、みらい会議に予算を申請して、向こうへ向いて自由に使って、自由な発想でやってくださいと新聞には書いてある訳ですけれども、私らが今行政に上げている申請書は、みらい会議へ上げるのですか？我々としては、私は両方の役員をしているから、どちらがどうということは無いのですけれども、これまだ皆さん知らないと思うのです。これを各 160 の区長さんが知ったら、いろんな意見が出てくると思うのです。

《回答》

地区みらい会議の市民自治の形に関しては、大変今ご苦労をいただいておりますけれども、この地区みらい会議は進めさせていただきたいと思っています。これは何故かと言いますと、民生委員さんのお話も出ましたけれど、地域で自治会活動をする状況が大変になってきています。そういった中で、広域的に取り組んでいくことが必要であろうと思っています。例えば、現状を申し上げますと、旧伊勢市内の地域の中で、買い物をするのが出来ない、病院に行くことが出来ないという、交通弱者の方が多い地域というのが少しずつ増えてまいりました。そういった中では、各 1 つの自治会ではなく、小学校区でどういう取組をしていくかということが大事になってきます。1 つの地域では、我々でルートを決める。ダイヤも決める。そして、運転手も配置する、ということで、新しい自主運行バスをスタートさせていきたいと思っています。また、他の地域では、団地の中で高齢化が進んできて、買い物に困っている、病院へ行くことが出来ない、ということで、これからの地域の状況の中では、広域的な取組が必要不可欠になってくるのではないかと考えています。行政は平等制で、1 つの地域ではなく、みんな一緒にやらない

といけないという概念があります。しかし、それを買い物難民のことで取り上げた場合、全地域だったらどうなるか。大変な費用となり、労力がかかってきます。そうではなく、それぞれの地域に合った課題を解決していくために、地区みらい会議を進めていきたいと考えています。

民生委員さんの関係については、3年前に欠員が伊勢市全体で十数名出てきました。それではいけないということで、なぜ民生委員さんに欠員が出るのか状況の調査をして、民生委員さんから良いこと悪いことを全部出してくれと、見直しをかけました。

行政からの負担がすごく多い。民生委員さんがしなくてもいい仕事に関しては、出来るだけ無くしていこう。そういった択出を進めていって、今報酬はありませんけれども、実質費用、実費で、これまで月額 3,500 円位でお願いしていたのを、4 千いくらまで引き上げをさせていただきました。これからは県と国の制度に対しても、改善を必要とすることを言っていけないといけないと思っています。今も実際、県・国に対してこういうところを直してくれ、という要望を出させてもらっています。

《質問・意見》

補助金の問題、補助金は一括してみらい会議に。地域振興助成金のことですか。私も年間 15 万円、地域振興助成金としていただいています。それを、みらい会議に一括して渡して、そちらで行事を進めていくのですか。今年、地域振興助成金は出ないということですか、来年からですか？

《回答》

(産業支援課)

振興助成金の考えは、平成 27 年度からです。平成 27 年度には、全 24 小学校区に地区みらい会議を立ち上げたいと考えておりますので、その時には一括交付金という形でさせていただきたいと考えております。その中の 1 つとして、振興助成金を考えさせてもらっています。

《質問・意見》

振興助成金は、平成 27 年度からは単独では出ないということですね。

《回答》

単独では、出ないです。一括交付金の中でさせていただきたいと、今考えておまして、検討中です。確実にこれとこれを一括交付金の中でということは、議会にも示させてもらっていません。案としては示させてもらっていますが、最終協議はさせてもらっていません。

《質問・意見》

明野第 3 です。小俣の地域の環境と小俣の福祉が今まで上位レベルできていた。伊勢市にはないから、もう要らないという話をよく聞くのですが、おばた祭り、体育祭、こういうものが無くなって、伊勢市が 1 本で体育館や競技場でやるとかいう話があるのですけれども、そこまでの交通機関ですね。そこまで、皆さんが行けるのかどうか。その辺も含めて、市長の回答もいただきたいです。小俣のこういういいところを皆取り上げていて、伊勢市のレベルに合わすという話を聞くのですけれども、小俣のレベルに合わせさせていただきたい。こう私は思うのです。この辺

は、市長はいかがですか？

先ほど自治区の話が出ましたが、この自治区におきましては、平成 27 年度にも交付金が無くなるという話ですが、みらい会議にそんな権限を伊勢市は持たすのですか？小俣でみらい会議が出来て、何年になるのですか？今までに何をやったのですか？進め方について、今からこのみらい会議、このままでの進行となると、住民には 1 つも良い所が無いし、まちづくりをしようと思っても自治区がかまないと全然進まないです。こういうところを、どういうふうにもっていくのか。そこを聞きたいし、また、小俣が進めてきたコミュニティ、コミュニティ放送、戸別放送、これに対しても、小俣だけなのだから、これだけの予算しか渡さないということですが、東日本、ここでも家の中に居て亡くなった方が大半です。この辺の放送がスピーカで聞けるのかどうか。

過去 3 年くらい言ってきたのですが、本当に聞けるのであれば、人の命は守れると思うのです。家の中に居る人間がなぜ守れないかということ、根本から市長も考えていただきたい。

《回答》

戸別受信機の関係ですけれども、小俣地域の中では防災のことだけではなく、地域のコミュニケーションというやり方で活用いただいていたと聞いております。以前に上久保にお邪魔した時もそういう卓を使ってやらせていただいたこともありました。当初は、戸別受信機については伊勢市全体でやった場合に、二十数億かかるという話がありまして、それで進めるかどうか議論してきました。結論から言うとご承知のとおり、地域の防災やコミュニケーションの方が大事なので、こういった形でもサポートできないかと、今回補助制度を作らせていただきました。

小俣の良いところ、二見の良いところ、御菌の良いところ、それぞれ良いところ、悪いところ組織なので、当然色々あると思います。

そういった中で、合併する時にどこを削って、どこを取り上げようかとやってきました。今、合併から 8 年が経ち、各地によっては、「こんなんやったら伊勢と合併しなかったらよかった」という声も出てきているというのも現実だと思います。そういった声を、きちんともう 1 回は正していけないといけないと思っています。皆さんから「こういうことは今回全部無しになってしまったけど、今度新しいことで、こういうのはもう 1 回考えてもらえるだろうか」ということは、どんどん声を上げていただきたいと思います。今回のコミュニティ放送も、やはりそういった声をいただいていたというのが一番大きなものでありますので、お願いしたいと思っています。

みらい会議については、自治区さんしっかりされてきたというのは、十分理解しています。例えば、地域の課題については議員さんが出なくても、自治区さんで全部解決すると、そういった意気込みでやっていただいたことは理解しています。ただ、伊勢市のこれからの将来の状況を見ますと、昔みたいに若い人が沢山増えてきて、地域の運営を全て出来ていくかということ、これもまた難しいところがあると思います。そういった中で、地区みらい会議の進め方についても、これからご議論させてもらいたいと思っています。広域で出来ることは大事だと思います。

《質問・意見》

自治区を含めてでないと、何も出来ないと思います。自治区をうまく使っていくのが今までの小俣のやり方で進んできた。しかしながら、3 年が経って何が出来たのですか？花壇が出来ただけ。花壇も一部しか出来ていない。花壇が出来たら水やりをしないといけない。水やりは誰がす

るのか。役員さんがする。そういうのは、自治区へみな下ろして広げていく。せつかく自治区があるのだから、そういうところは利用してやっていくのが、1歩でも2歩でも金のかからない進め方です。

私も、長年自治区の役員をしてきたけれど、みらいづくりの話は一つも分かりません。聞いたことがありません。広報でと言われたけれど、私も広報をいちいち全部見られないです。そういう中で、みらい会議は誰が知っているか知らないけれど、本当に民意の進め方で進んでいるのか。この辺も検証してもらいたい。その辺は肝に命じて、先頭に立ってお願いしたいと思います。

《回答》

はい、分かりました。

《質問・意見》

明野第4でございます。

1点は、神社港のあの判断のことについてです。伊勢市としては、大変な方向へ引っ張っていく中で、鈴木市長の英断において、垂れ流しの状況を食い止めていただいたことに対しては敬意を表します。けれど、その後に対する情報というのは、私は今夜ここに来ていただくということで、神社の現地を今日見てきまして、神社の友人とも話をしてきたのですけれども、取り壊した形の中で、限りなくそのまま土地の借地料を払い続けておると、それも端な値段ではない。地域の住民の方から言わせると、使えない状況になった中で、これだけ相当な額を毎年払い、契約だからという形で、これは法律上そうなるのかも知れませんが、神社の友人いわく、あれを本当に活用したら、もっと地域づくりができたのかなあと残念がっているし、護岸がきちんと整備されている。本来なら、現況復帰で元に戻すのかなと思うのですが、実際は地権者が活用できるような護岸がきちんとされているようにあるわけですが、地権者に対して優遇をしているんだなという声があったので、それが1点です。あそこの港湾の使用に関して、市とか県への負担金は返ってきているのですか。

2点目は災害のことですけれど、この辺の地域は津波があつたら最終的には大仏山へ逃げないといけないというのは、皆の常識的なことなのですが、あそこへ行く避難路とかが整備されていない。先ほど、都市計画の中で考えていると言われたのですが、この地域の間人としては、合併したことにおいて都市計画税を払わないといけないことは確かになった、そのメリットは何があるのか。

《回答》

海上アクセスの関係は、海上アクセス事業を止める、ターミナルを壊す、その後の状況については、8億数千万を現金で払ったわけではなく、借金をして作りました。その借金のことについては、金融機関がJAさんだったので、利息はいらないと。利息で2千万くらいあったと思うのですが、それはいらないので元金だけ返してもらったら良いという状況でした。漁協さんに関しても、契約であさりの漁業補償で年間100万から200万、そういった補償も出来るだけ我慢していただいてやってきました。今は、地権者の方との契約状況は、出来るだけ税金を使わない方向で交渉させていただいている真っ最中であり、相手さんのあることなので、出来るだけ税金を使わない形で進めさせていただきたいと思っています。

《質問・意見》

年間いくらくらいですか。

《回答》

年間 1,200 万ちょっとです。月 100 万くらいです。神社の方からすると、実際そういった声も上がっています。今神社の方で取り組んでいるのは、宇治山田港も船が通りにくい状況になっていまして、年間で 20 隻から 30 隻くらいが、ヘドロが溜まって乗り上げてしまっている状況です。現実的な形としては、宇治山田港湾がちゃんと使える様に浚渫を進めていただき、県・国の護岸の整備が進み始めているところです。

津波が来た場合の避難道路については、地域に避難タワーの建設を準備させていただいている状況です。どういった避難の仕方が良いのか、是非とも協議させていただくことが大事だと思っています。我々が図上だけでここが良いだろうという話ではなく、地域の方で、「こういった時に、こういう逃げ方をするのはどうだろうか」という話をさせて頂く機会をいただけたら、ありがたいと思います。

《質問・意見》

後の問題に関しては、地域の声を聞いていただきたいと思います。

市長、毎年 1,200 万円ずつ出しているということに対しては、本当に汗を流して、財政を保っていただきたいと思います。

《回答》

はい、わかりました。

《質問・意見》

市長との懇談ということですが、私はこういう機会は初めてです。今市長が、笑子幸齢化の伊勢市で説明していただきましたけれど、この説明は私が考えると、市長がこういう細かいことを説明しないといけないのかと、総務課長あたりが説明する段階と違うのかなと思うのですが、どうですか。

私が思うのは伊勢市の人口が 13 万です。将来のビジョンとして伊勢市長がどうやって市民をリードしていくのか。安心して暮らせるような伊勢市にするのか、一遍聞きたい。

もう 1 点は中部空港へ船を走らせました。あれが無くなりました。7 億円やら 8 億円やらいう噂で色々その損失が出ました。これは、伊勢市の負担ということは、市民の負担ということになります。どうなっているのか。これと同時に、現在も廃港になったところの敷地が借地として借り入れられていると聞いているのですが、これは事実ですか。

月に 100 万、年間 1,200 万。これが 30 年契約になっているので、回避が出来ないと聞いています。その辺はどうですか。

例えば、観光もそういう産業としてはよろしいけれども、産業都市として企業を誘致して、他市はトップセールスと言って、あちこちに航空産業とか新幹線産業とかを誘致しておりますけれども、伊勢市の市長としてはそういう声は全然聞いていないです。考えておられるのですか。

《回答》

雇用の面は観光だけではなかなか成り立たないというのが実際のところですが、現状観光に従事している方、一時的にお土産屋さんとか旅館さんで第 1 次的に利益を得る方々の数として試算してみると、五千人から七千人くらいと把握しています。観光はやはり一番の軸として持っているのは大事だと思います。おっしゃるとおり、他の産業はどうするのかというお話がありました。今までは、大企業の誘致というのがメインでありました。例えば、シャープさんを誘致してこうとか、京セラさんトヨタさん大企業誘致型が今まで多くありました。この大企業誘致型というのは結局のところ、今現状から見ると、非常にリスクの高い状況にあります。そういった中で、中小企業の誘致・支援というのをメインにしていくべきではないのかなと思っています。現在、先ほどおっしゃいました航空の面でも、航空トップというのは愛知県の方でスタートして、神鋼電機シンフォニアさんも航空産業に関わってみえますので、そういった中で参画もしていただきました。新幹線の方は、菊川鉄工所さんが新幹線の関係の仕事もしていただいています、今度県営サンアリーナの所に高台がありまして、そこに市内外の企業さんが集まってきていただいているところです。その工場が全部稼動したところには、数は多く無いですが、新規で 70 名から 80 名位の新しい雇用もでてくるという状況があります。観光と産業面はまだまだ弱いのが実際のところですが、東京を中心に企業誘致も今 3 年目、もう 1 回梃子を入れてやってみようではないかと、今進めているところです。

《質問・意見》

観光も否定はしませんけれども、これは一過性のものです。遷宮にしても 20 年に 1 回です。企業を誘致すれば、今後の若者の雇用が定着するのです。伊勢市がそれに相応した発展をしていくと、市長もきちんとそういうビジョンで企業を誘致するよう考えていますということ、広報などで知らせてもらいたいと思います。現にやっておられるのですか。

《回答》

広報できちんと、こういうことをやっていますとか、こういう取り組みをしています、ということは、あまり出ていないです。

《質問・意見》

企業誘致という運動はやってみえるのですか。

《回答》

やっています。もう 1 回見直します。

今、年に 1 回東京で、地元の伊勢や三重県出身の政界・財界の方々の力を借りて、レセプションをやったり、情報収集することに取り組んでいる状況です。

《質問・意見》

伊勢市は市議会議員も多いし、そういう人を利用して、きちんと市民が安心できるような市政をやってもらわないと、我々不安でかなわないです。安心できるような、市政を 1 つお願いしたいと思います。

《回答》

はい、分かりました。

《質問・意見》

私は質問ではないのですが、お願いします。1点は市長さんの良い話を聞きました。今年の初めにいせトピアでイベントがあったのですけれども、そこで、婦人会の方が豚汁の炊き出しをして、市長さんに試食をしていただきました。そしたら、ご子息が一緒におみえになっていて、「パパ僕も」と言われたらしいのですが、「お父さんは仕事でしてるんだ。君は食べるのだったら並びなさい。」と言われたって。婦人会の役員の方は、自分があげたかったけど、市長がそういうお考えで、じゃましたらいけないと思ったので、見ておったんだと。公私混同されない、すごいことやって、聞かせていただきました。直接お話をする機会が無かったものですから。

もう1点は、市役所をお願いしたいのです。市長になられて間もなくだったと思うのですが、明野第4の方が、緊急通報装置の申請をしました。そしたら、その調査に若い職員さんが本人の所へ電話をかけました。「あんたの声を聞いていると、とても年齢には見えへんし、元気やなあ」って言われたって。その人が言われるには、現場へ来てもらって判断をしてもらうのは良いけれど、そんな電話でなんてとんでもない話。私は一生市役所には世話にならんとおっしゃって、直接お聞きしたことがあります。どうか、何か申請があった場合は、ご高齢の方ですので、現場へ足を運んでいただきたいと思います。市長の「笑子幸齢化」はすごいことだと思いますが、今の伊勢市を築いてくださったのは、それこそ戦中戦後大変な思いで、過してみえた先輩方が作ってくださった伊勢市だと思いますので、子供のことを考えていただくのと同時に、高齢者のことも考えていただきたいと思います。

《回答》

分かりました。ありがとうございます。

《質問・意見》

一番最初に市長さんのお話がございましたが、ご遷宮があるということで、外宮さんの方が賑やかになりました。私も時折内宮さん外宮さんに伺うのですが、せんぐう館も出来ておりますし、観光客・参拝者が大変多くなっているというのに、気がつきました。それに伴い、内宮さんの方が常に、初詣の頃から高速から降りて来たときの混みよう、もう何時間もかかるから帰る、という方もいらっしゃるくらいなのです。アリーナの方からピストン輸送もしておりますけれど、あそこを見ますと、御木本道路の分離帯がありますよね。

あその分離帯というのが、普通の所より少し広いのです。それを狭くしてでも、3車線に出来ないかなということを、私は自分なりに考えておりました。今回はもう間に合いませんけれども、20年・15年というのはあつという間に、また次のご遷宮がございましたよね。5年前から準備しますよね。検討というか、計画の中に出ているかどうか分かりませんが、それも覚えておいて欲しいと思います。

それから、先ほど市長さんおっしゃいましたように、内宮に参拝する時に車椅子、現在15,000件あるということでございますけれども、車椅子を通る内宮さんの参道は長いのですので、車椅子が通れるような砂利道、ガタガタです。伊勢神宮あたりと直していただいて、出来ないかなとい

うことも含めてお願いしたいと思います。

《回答》

はい、分かりました。

渋滞のことは、今回抜本的にというのは難しいという状況があります。現在は、平成33年に三重国体が予定されていまして、そこを目途にどういうふうに準備をしていくか、取り組ませていただいております。神宮さんの車椅子のことについては、こつこつとお願いさせていただきたいと思います。

《質問・意見》

明野4の区長です。

防災無線は1基増やしていただいて、明野4には3基ございます。コミュニティ放送については、我々明野4は、隣に自衛隊さんがみえますので、夏の暑い時も、冬の寒い時も窓を閉めています。すると、防災無線も含めてラップではまず100%聞こえない。その状況の中で、例えば3.11のように想定外のものがきた場合に、コミュニティ放送しか皆さん方に知らせる方法が無い。そのために、何とかならないのかということで、予算を出していただいて、約70%の補助を頂けるようになったところで、進む状態になっています。我々明野4も小俣の連協としては、モデル地区で何とか頑張れと話を聞かせてもらっています。それに含めて、進めていく以上、市からの補助を貰えるものであれば、何とか考えていただけないかなというのが、まず1点。普通の補助が、いつ頃いただけるのか。

まず、9,500円各個人に出していただかないといけないのですけれど、それを明野4は今650世帯自治区に入らせていただいております。入っていない家を入れると800世帯くらいあるのです。

650世帯が一挙に全部入っていただく要件が出来たときに、何百万というお金を出さないといけないことになるので、そういうお金は、自治区としては大変なので、補助金になるべく早めに出るのか、その辺を聞かせていただきたい。

後は、少子高齢化の件で先ほどから皆さん言っていますけれども、合計特殊出生率が全国的には1.41で、ちょっと増えたという話。伊勢市に対してはどうなのかということをお聞きしたい。

《回答》

(小俣総合支所)

自治会放送の補助事業ですが、今、小俣の各自治区で検討を進めていただいております。そうした中で、大きな自治区では600世帯700世帯という自治区が幾つかあるので、事業費が1千万を超えるところも出てまいります。今回の補助事業につきましては、市から3分の2の補助ということで、自治区負担は基本的には3分の1。その3分の1を負担すればいいわけですが、これは補助事業ですので、原則からいけば、10割全てを一旦立替えていただいて、後から3分の2が交付されるということでございます。ただ事業費が大きいことがございますので、私どもの方から市民交流課に確認させていただいて、あらかじめ事業費が固まった段階で、3分の2の補助金について概算払いで支払いを受けると聞いておりますので、業者さんに支払う前には、市の補助金はほぼ満額交付を受けることが可能となっております。

（後日回答）

伊勢市の合計特殊出生率につきましては、全国と同様、2005年の1.22を最低に、2010年には1.42、翌年の2011年には1.54となっています。【出典：三重県の母子保健】

《質問・意見》

中部空港の敷地の借地の件、返事もらっていないです。

もう1つ付け加えると、7億円8億円か知りませんが、それは当時の責任者に、伊勢市としては賠償請求できるのですか。

《回答》

賠償はしていません。今、市役所全体となって、きちんと市役所が市民に迷惑をかけない形で、収入を増やすことや支出を減らす取組をしているところです。借地権については、平成29年が契約の期限ということになっています。年間1,200万円という金額で契約しています。それを、如何にできる限りお金を減らしていくか、交渉している最中です。

《質問・意見》

その時の議員にも、賠償してもらわないといけない。議員も賛成したのだから。

それで、あれを作るということになった。やはり、議員も責任を持ってもらわないといけない。

議会で市長が言ってください。市民は全部そういう意識でいるので頼みます。

《市長挨拶》

今日は、遅い時間までありがとうございました。色々な課題がありますけれども、今日頂いたご意見を、きちんと担当課に伝えて、少しでも改善して改革が出来ればと思っています。よろしく願います。今日は、どうもありがとうございました。